

ぽむ・ぽむ通信

No. **42**

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぽむ・ぽむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



～ネパールスタディーツアーから～

ぽむ・ぽむ通信 42 号

目次

- ◇ユニセフスタディーツアー（ネパール 11/15～11/23）・・・・・・・・・・・・・1
- ◇トピックス 「CO・OPマークの牛乳を飲んでユニセフ募金」・・・・・・・・・・・・・11
- ◇「知っとこ。ユニセフ 『女子教育』」・・・・・・・・・・・・・12
- ◇「世界の子ども達は今 『女子教育』」・・・・・・・・・・・・・13
- ◇生協のユニセフ活動「ハンド・イン・ハンドのおしらせ」・・・・・・・・・・・・・14

ぽむぽむ通信 活用のすすめ

- ・ 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでの使用をおすすめします。
- ・ 全てのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子ども達は今」を集めて、資料として活用していただけます。
- ・ ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に、資料としてご活用いただけます。
- ・ 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・ 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。

(財) 日本ユニセフ協会 ネパール スタディーツアー
地域主体の女性と子どものためのプログラム (DACAW)
～現地視察を終えて～

報 告 書



■参加者リスト <合計12名>

生協からの派遣者 5名

日本ユニセフ協会 地域組織 5名

日本ユニセフ協会 2名

(敬称略)



	参加者氏名	所属
1	久保 俊朗 くぼ としあき	日本生活協同組合連合会 組合員活動部
2	筒井 景子 つつい けいこ	全国大学生生活協同組合連合会 常務理事／学生委員
3	福士 久美子 ふくし くみこ	いわて生活協同組合 常務理事
4	羽島 新菜 はしま にな	生活協同組合コープこうべ 組合員理事
5	原田 秀美 はらだ ひでみ	わかやま市民生活協同組合 常任理事
6	清水 智子 しみず ともこ	日本ユニセフ協会 宮城県支部 専務理事
7	菅田 俊雄 すがた としお	日本ユニセフ協会 福島県支部 常務理事／事務局長
8	酒井 奈津子 さかい なつこ	日本ユニセフ協会 千葉県支部 学習会担当
9	西岡 琇一 にしおか しゅういち	日本ユニセフ協会 奈良県支部 事務局長代行
10	河野 敦子 こうの あつこ	日本ユニセフ協会 愛媛県支部 ボランティア
11	千寿 満城 せんじゅ みつしろ	日本ユニセフ協会 団体・組織事業部長
12	谷口 光 たにぐち あきら	日本ユニセフ協会 団体・組織事業部



■地図



2008年 生協ネパール スタディツアー

時間	活動内容
DAY 0 11月15日(土)	
	成田発 ✈ 日本航空 (J L 7 0 3 便 : 16 : 00 発) にてバンコク (21 : 05 着) に出発 🏠 バンコク泊
DAY 1 11月16日(日)	
12:45	バンコク乗り継ぎ ✈ タイ国際航空 (T G 3 1 9 便 : 10 : 35 発) にてカトマンドゥへ
14:00	カトマンドゥ Kathmandu (12 : 50 着) … トリブヴァン国際空港
16:00	ホテルにチェックイン
	地域開発省に到着 ネパール政府とユニセフの協力体制に関するブリーフィングとプレゼンテーション …特に DACAW(子どもと女性のための分権活動)の取り組みについて プレゼンテーションはユニセフが中央と地域の両面から活動を行っていること、そしてネパールでの女性と子どもの状況について理解することを目的とする
DAY 2 11月17日(月)	
09:00	UNICEF 事務所を訪問 UNICEF の全体的なプログラムについてのブリーフィング
10:30	UNICEF が支援しているラジオ プログラム Saathi Sanga Manka Kura (私の親友と話そう) について学習するためイコールアクセスネパールを訪問
13:00	昼食
14:30	空港に向けて出発
15:00	カトマンドゥ(トリブヴァン国際空港)発 ✈ ブッダエアーBHA355 便 (15 : 00 発) にてバラトプルに出発。
15:30	チトワンに到着 UNICEF バラトプル現地オフィス訪問 (西部、ナワルパラシ地区での女性と子ども達の状況、UNICEF プログラムについてのブリーフィング) 🏠 バラトプル泊
DAY 3 11月18日(火)	
08:00	ナワルパラシまで車で移動
10:30	ベニマニプール VDC(村落開発委員会)に到着 コミュニティ活動経過を観察 Suryodaya Community Organisation(スルヨダヤコミュニティ団体)を訪問 コミュニティ団体メンバーと交流、また村での全コミュニティ関連サービスの統合プロセス、特に保健サービス、FCHV(女性コミュニティ保健ボランティア)に焦点を当て学習。連合する前と後の変化について説明。 ・ 成長モニタリングプロセス(栄養イニシアティブ)、体重測定を受ける子ども達 ・ 収入一律活動、など

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児発育センター ・ FCHV から供給される保健サービス
13:00	昼食（お弁当）
14:00	マナカマナにある CBCDC (コミュニティベース子ども発育センター) 訪問 子ども達の活動を観察。CBCDC の経営、管理について経営委員会とスタッフとの交流。 また、保護者と交流し、CBCDC に参加している子ども達にどのような変化があったかについて情報を得る。
15:30	ルパンデヒ地区、ブトワルまで車で移動。
17:00	 ブトワル泊
DAY 4 11月19日 (水)	
08:00	パラシまで車で移動。(UNICEF 地方本部)
08:45	DACAW の下で CAP (コミュニティ アクション プロセス) に焦点を当て、UNICEF が地区、コミュニティレベルでナワルパラシの NGO、政府関係者との協力でどのように活動しているかについて DDC (郡開発委員会) のプレゼンテーション/ディスカッションに参加する
09:30	パクリハワ VDC まで車で移動。
10:30	CCOSP (学齢期の未就学児中心プログラムセンター) を訪問。通常の学校を通えなかった子ども達、特に貧しいコミュニティの子ども達が補習授業のために通う教育・学習プロセスを観察することが可能。子ども達と交流する機会もあります。
11:30	マナリ VDC へ車で移動。昼食（お弁当）
12:30	マイラジャガラン多目的協力(女性連盟)に属する女性と面会。連盟の会員とかれらの様々な活動、連携について話す
14:00	VDC レベル パラリーガル委員会(PLC)メンバーと面会、交流 PLC がどのようにコミュニティを支援しているかについて彼らから情報を得る。PLC によって解決された事例の依頼人に面会できる可能性があります。(事例は家庭内暴力、魔女術責め、児童結婚、重婚などが含まれます)
17:30	 ブトワル泊
DAY 5 11月20日 (木)	
08:00	ナワルパラシにあるドゥーラリ VDC まで移動
09:30	SSHE (学校公衆衛生) プログラム、ジワラ中学校における子どもに優しい学習を視察 (そのとき毎年恒例の子どもフェアが実施されています) 公衆衛生キャンペーンに参加している子どもクラブメンバーと交流、子ども達による公衆衛生についての演劇を鑑賞。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 囲いのない場所で用を足すことをなくすためにどのように活動しているかを認識している学校の権力者、コミュニティとの交流 ・ 学校経営委員会メンバーとの面会、彼らが担当する学校とコミュニティ間の連絡係について情報を得る ・ 関西、九州地区“ピースアクション”の絵を交換 ・ 学校で推奨されている子どもに優しい教育・学習技術を視察

12:30	昼食（お弁当）
13:00	プラガティナガルまで車で移動
14:00	SSMK(私の親友と話そう)の視聴者クラブとの交流、ラジオプログラムがどのように彼らの生活に影響、違いをもたらすかについての情報を得る
16:00	LSBE(ライフスキルに基づく教育)プログラム下で訓練を受けたピア教育者との面会。 ピア教育者が援助の手を差し伸べた友達と面会し、彼らが得た利益を見る
	 テンプルタイガーリゾート泊
DAY 6 11月21日 (金)	
	✈️ ブッダ航空 BHA354 便にてカトマンドゥへ
09:00	カトマンドゥに到着
11:00	昼食はホテルにて
11:30	UNICEF 事務所にて報告会
19:00	 カトマンドゥ泊
DAY 7 11月22日 (土)	
08:00	朝食
09:00	チェックアウト
11:30	空港に向かう
14:00	TG320 便でバンコクへ
DAY 8 11月23日 (日)	
	成田へ

11月17日（月）

■カトマンズ

Saathi Sanga Manka Kura (SSMK) :

“私の親友と話そう” ラジオプログラムを視察

2001年、ユニセフが10代を対象にした調査をもとに若者が率先して生活技能に関わる交流プログラムを手がけたことを機会に、“私の親友と話そう”という若者のラジオプログラムが始まった。2004年以降は、社会改革のためのコミュニケーションに携わる団体であるイコールアクセスネパールが基点となり活動を続けている。2001年からの4年間についてはユニセフが資金援助を含め支援していたが、以降はNGO等の、時としてリスナーからの資金援助がある。2001年の設立時には5名しかいなかった有給スタッフも現在は26名になり（うち6名は新人）、毎週土曜日の午後に1時間放送している（40のFM局に発信内容を提供し、地域によって各々都合のよい時間に発信している）。



今日まで情報を最も効果的に発信することができるツールとして、ラジオが用いられていたが、4年前からは雑誌を発行（3ヶ月に1回、写真や記事の提供はリスナーから）、ネットメール、SMS（ショートメッセージシステム）、手紙を通じて広く交流を行っている。リスナーは610万人（最近7日間のうちでプログラムにチューニングした人数）、紹介する内容は、リスナーが共通して必要としている情報に的を絞っている。個人としてはサポートしにくい部分をコミュニティやグループで取り組むことによって意識改革の部分で効果があると考えている。

ラジオ局に寄せられる手紙は、月1200～1500通にのぼる。その内容は、自分が抱えている問題についての相談が殆どである。特に大切にしていることは、番組で取り上げられなかった全ての手紙に対して返事を出すことである。これは郵送費がかかることが難点だが、リスナーの新規獲得、継続に大きく影響を与えていると考えられている。かつては、少人数でバリエーションに富んだ悩み相談等にも対応することができたが、現在は多岐にわたる相談に対し、ユニセフに指導を仰ぎながら45項目に分けられた回答用テンプレートを用いて回答をしている。遠隔地の村などでは絶対的に情報が不足しているが、ラジオの破損等が原因で物質的な支援を求めてくるケースもある。1年前からは、海外、特に中東に出稼ぎに行っている人々からの要望に対しても答えられるように、メール、SMSでの対応も受け付けている。月にメールは200通、SMSでは2200通にのぼり、簡単にyes/noで答えられる質問を投げかけたり、イベント/ワークショップ等の参加呼びかけを含んだ情報発信を行っている。

10年の紛争を終えて、最近はキャリア達成のためのハウトゥを問う内容が多数寄せられ、新たに30分の新番組を立ち上げた。現在、ユニセフは資金面での支援に加え、ワークショップ等のイベントへの協力を行っている。特に若者の事柄に対して若者自身が行動を起こしている。ネガティブなスタンスではなく、現状を改善するためにどうすればよいかを前向きに考えて行動に移していく姿勢が見受けられ、このプログラムは更に発展している過程にあると感じた。現に、2つの賞（ユニセフに関わるICBT、イタリアの賞）を受賞し、ハリウッドスター（オーランドブルーム氏）の視察とプログラムへの参加協力等は、評価と期待の表れである。

今後の活動として、ネット上でのデータ検索機能の構築、世界エイズデーに向けてサッカー大会の開催を計画しており、スポーツを通しての若者の関わりを模索している。

スタッフは誇りを持って活動に携わっている。感謝の手紙。親が子を連れて団体に訪問してくることもある。

11月18日（火）

■ナワルパラシ

ベニマニプール村落開発委員会（VDC）：

村落開発事務所を訪問（コミュニティ アクション プロセス CAP）

委員会メンバー11名中6名が女性であり、DAG（低カースト9%）に属している方も参加している。学校の校長先生も DACAW の協力メンバーとして参加し、ファシリテーター、子どもクラブ（会長は男の子、副会長は女の子）とともに協力して活動を行っている。

年代比較では順調に取り組みの改善が見られる（2001年より支援実施）。

	2004年	2008年 (ネパール暦3月)
世帯数	1557世帯	1803世帯
開発基金参加比率 (緊急時の積立金)	82%	68% 紛争時に世帯数が減ったため
CAP 実施率	100%	73%
トイレ普及率	55%	75%

DACAW に取り組む VDC の支援は、実績に伴って拡大し、2008年では15万ネパールルピーもの支援を受け、9地区の VDC で①栄養、②食事、③児童開発、④建物、⑤未亡人へのサポートを実施している（文化的、社会構造的な背景もあり、例えば未亡人に対しては根強い偏見があるにも関わらず、決められた服装をしなくてはならないため直ぐに判別が付いてしまう etc.）。

具体的な働きかけとしては、以下の4つが挙げられる。

- ①各家庭へ訪問時 学校へ通わせるよう指導
- ②予防接種用のセンターを全地区につくった
- ③アルコール依存症（タバコ、麻薬）
→e.g. 家庭内暴力につながる可能性 等を未然に防ぐ
- ④ドゥートリーグループ（団体）の協力
→HIV 感染に纏わる啓蒙活動（ドラマ、寸劇）を実施

子どもグループには小額の資金的支援を行っており、子どもクラブが自発的に活動を実施している。また、モビライザーには衣装（服）を提供することでモチベーションを高く保ってもらえるように配慮している。また、VDC は、プログラムの実施に関係するグループ（例えば、パラリーガル委員会、モビライザー、教育グループなど）の相互交流の場を設けている。4ヶ月に1回、DACAW に関わる代表者会議を持ち、個人トイレ、公衆トイレの掃除やジェンダーギャップをなくす研修なども実施している。

年代男女比較でも順調に改善が見られる。

	2004年		2008年	
	男	女	男	女
3才未満児数	288	302	295	286
体重測定した数	196	208	251	222
適正体重の数	165	153	225	182
適正体重ではない数	32	54	26	40
栄養不良の割合	21%		14%	

※開発局の栄養不良に関する数値目標は20%

■ベニマニプール村落開発委員会（VDC）：

地区3 スルヨダヤコミュニティを訪問

ここでは、乳幼児身体測定が月に1回実施され、視察時には3歳未満児（男児3名、女児5名）を測定していた。この測定は、モビライザー、女性コミュニティヘルスボランティアとコミュニティの協力を得て実施されている。



6年前から DACAW を実施しており、財政的支援の一環として、ローン、積立（貯金）を行い、保健的支援としては、発育観察、妊産婦のケア（産前後）を実施している。例えば、かつて出産時までには胎児が大きくなりすぎて出産が難しくなると考えられていたため、妊娠女性が鉄分を摂ることは好ましくないとされていた。しかし、正しい情報を得ることで、保健に関わらず、栄養、水と衛生等の分野においても改善が見受けられるようになった。

地区3コミュニティの状況を表す地図をコミュニティの方々自身で作成（マッピング）・調査した結果、以下の改善が見られる。

	2002年	2008年
世帯数	33	42
簡易トイレ (世帯数)	15	13
水道 (世帯数)	19	31
トイレ (世帯数)	5	17
ヨード添加塩使用 (世帯数)	21	32
お寺	1	3



水タンクの設置、体重比較表は個別に配布、子どもが病気に罹りやすい時期の月別一覧表などを作成し、年間を通しての傾向を踏まえた対策が実施されている。世帯調査と合わせて体重の適正/不適正グラフなども作成し、視覚的にも整理された情報をコミュニティで共有している。これらのデータをもとに作成した掲示板を用いて、6ヵ月毎に会議を持って改善策を探っている。定期的なミーティングは月1回設けられ、現金の運用や女性の権利擁護についてなどのトレーニングを実施している。

保健センターを増やし、栄養の知識等の普及を行うことなどを手がけているため、具体的な効果が見られる。着実に効果が見られる模範者（確認は家庭訪問）には保温機をプレゼントするなど、向上に工夫を凝らしている。

女性の立場向上に関しては、VDC と共に、学校、DDC、保健所、郡教育事務所、女性開発事務所、水道衛生プログラム、農業開発事務所、子どもクラブ、NGO、村落開発プログラム、パラリーガル委員会などと連動して取り組んでいる。

VDC の幹事は、モビライザーに研修を受ける機会を提供することはあっても、原則ボランティアのため給与は支払われない。

モビライザーの活躍により、妊産婦の意識が向上し、コミュニティに加わる人々は増えるという成果が見られるが金銭的には厳しいのが現実である。調査の結果、栄養不良を発見しても物資支援ができないこともある。トイレの設置に関しても、総額10000ネパールルピーかかるが、2000ネパールルピーは資金援助があるものの、8000ネパールルピーは自腹で賄わなくてはならない。

積立金に関しては、緊急時（突然の子どもの発病、妊産婦のケアなど）に備えて各家庭均一で月20ネパールルピーを積み立てている。緊急時には15日間無利子で貸し出しを行い、無理のない範囲で返済（会長が管理）できるようなシステムで運用している。

このコミュニティにおいて、DACAW実施前にも積立金等の対策は行っていたが、ノウハウがなかったため、政府の支援を検討しているところであった。そこへDACAWが始まり、現在では実際にコミュニティ自体が力を付けている。個人では限界があるため、グループを作ることが大切であること、また、これまでは援助してもらうことを考えていたが、コミュニティが主体となって改善できることに気が付いたことは大きな収穫である（意識改革）。

コミュニティの年配女性はDACAWの支援に対して感謝している。現在、コミュニティの女性は家庭内での、特に男性の理解を得られるようになったことを実感しており、定期的に行われるミーティングへの参加や協力は面倒ではないと考えている。

■Manakamana コミュニティ主体の子ども発育センター（CBCDC）を視察：

就学前3から5歳の子どもたちの精神発達と、実状として両親が子どもの面倒を見ることができないなどの現状を踏まえ、CBCDC（コミュニティ主体の子ども発育センター）がある。お金がある裕福な人は私立に通う傾向にあるが、このCBCDCの費用に関しては、コミュニティ、DACAWから1年間にそれぞれ1万ネパールルピーの資金援助があり、3年間の支援総額は6万ネパールルピーであった。運営に関しては、若者クラブ、ユニセフ、VDC、など11機関の協力を得て活動を実施している（現在28カ所でCBCDCが運営されている）。



マナカマナCBCDCには、会長他10名の運営委員（女性7名、男性3名、うち土着民族4名、低カースト2名）で構成され、他にもコミュニティで支援してくれる方々がいる。

この先生になるためのユニセフの研修は12日間で、2名いる先生には報酬も支払われている。このCBCDCでは教材を購入するものもあるが、自分たちで工夫して製作することも多い。勉強方法には独自の工夫を凝らし、暗記することではなく、実例をもって実践的な基礎教育を行っている。



現在、コミュニティが立てた建物に18名の子どもたちが無償で通っている（10：00～14：00、土曜日お休み）。このセンターで集団生活の基礎を学び、将来のために行儀（挨拶、話し方、健康など）を養っている。例えば、1日のスケジュールをチャートにし、遊び、演技、歌、スポーツ、ドラマを通じて学び、また、算数、積み木（工作）、サイエンス（科学）、園芸など、想像力をつける学習法も取

り入れている。その結果、就学前の子どもの能力を開発でき、また、母親は安心して仕事ができるようになったと喜んでいる。

11月19日（水）

■パラシ

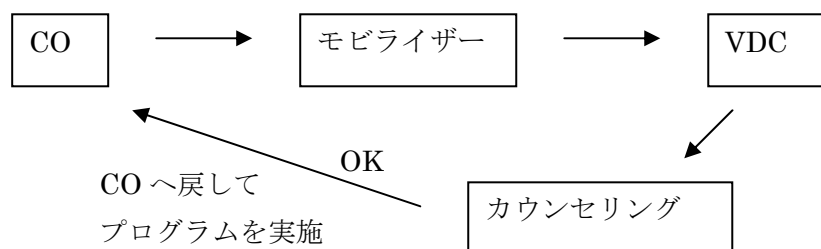
DACAW のもとで実施される CAP :

郡開発委員会（DDC）を訪問

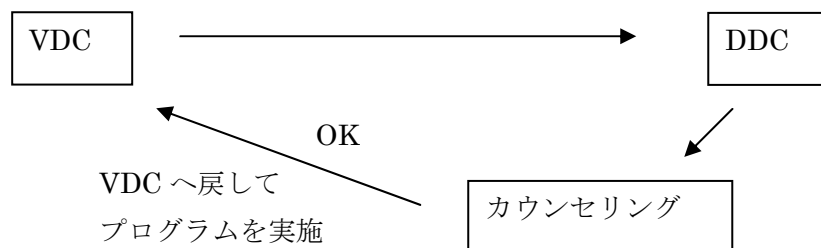
地域で力を付け始めた頃に紛争があり、現在、DDC の代表は開発省の役人が担っている。選挙が実施されていないため、役人が全責任を持って取り組んでいるが、郡の開発については DDC が関係省庁や NGO と協力してカウンセリングを行い、活動を実施している。ナワルパラシ（人口 60 万人）には 73 の VDC があり、DACAW は DDC によって調整され、政府の意向に基づいて統合的なアプローチをとっている（DACAW は人々の意識向上/改革を第 1 に考えている）。

政府自体も地方分権を望んでおり、DACAW 自体も支援を最も必要としている人（例えば、DAG 低カーストグループなど）に重点を置いているため、厳しい状況下にある人々（特に女性と子ども）の参加と権利を求めていることは共通している。政府が望んでいることを郡レベルで計画し、ニーズに基づいて DACAW を取り入れる。プログラム実施の流れとしては、VDC でカウンセリング（分析）し、解決不可能なものに関しては郡レベルで取り組むようになっている。

CO レベルのプログラム実施の流れ



VDC レベルのプログラム実施の流れ



半年に 1 回または 1 年に 1 回、郡レベルでプログラムに関するモニタリングと評価をファシリテーターと共に実施し、CO の視察/監視を行っている（VDC レベルでも、郡レベル同様に実施）。現状として、既に CAP を実施している VDC は 13 ヶ所、特に遅れている VDC は 23 ヶ所（うち 10 ヶ所がプログラム未実施）であることが分かっている。

DACAW によって、子どもたちの意識にも変化が見られ、325 の子どもクラブが活動を行っており、うち 201 が政府に認定されている。女性開発事務所は 34 VDC に設置され、82 の学校で衛生プログラムが実施されている（うち 63 校では水道とトイレが設置されている）。ちなみに、この地区のプラガティナガル村の全ての世帯（1200 世帯）でトイレ普及率は 100% である。立派なトイレをつくるには 10000～20000 ネパールルピーかかるが、簡易トイレ設置の費用は、2500 ネパールルピーほど（VDC 負担 1500 ネパールルピー、

自己負担1000ネパールルピー)。

10年前からユニセフの支援を受け、17VDCでHIV/AIDSプログラムなども実施しているが、更なる今後の課題として次の4つがあげられる。

- ①遅れている10のVDCで実施
- ②DAGに公式・非公式の教育を実施
- ③PLC能力向上と増設
- ④子どもクラブの能力向上

水と衛生の分野で、特にポンプに関しては、原則コミュニティの力で設置しているが、地形によっては水源が川などになる。砒素などの問題（平地に3500程あるポンプのうち、10%に汚染が確認されている。また、10フィート程の位置の違いで汚染が確認されることもある）も見られるため、水質調査を行い砒素汚染が確認されたポンプは使用禁止、また、飲料水とする場合には浄化することを指導している。今後、フィンランドからの砒素汚染へのサポートが見込まれる。

■パクリハワ VDC 学齢期の未就学児中心プログラムセンター (CCOSP) を訪問：



全ての子どもが教育を受けられるように、学校に通うことが叶わない10～14才の学齢期の子どもたちを対象に、無償で非公式の教育を行っている。公式の学校で教育を受けられるように2段階（2ステップ）の非公式教育を設けており、10ヶ月間1日2時間週6日（時間はフレックス、土曜日お休み）を終了し、テストに合格すると、公立の2～3学年に編入することができる。この段階で公立学校へ編入しない場合は、更に10ヶ月（2段階）非公式教育を受けることができ、終了すれば第1段階のときと同じように公立の5或いは6学年に編入できる（小学校入学率の改善を目的としている）。第2段階までの教育が終了すると、郡の教育事務所から小学校レベルの修了証明書をもたらえる。

1名の先生がファシリテーターも兼ねている（給料は月1000ネパールルピー）。ユニセフが実施する12日間の研修を受ける（先生となるはじめのトレーニングは4日間、そして8日間）。就学率は、ナワルパラシでは96%、ベニマニプールでは100%である一方、最も遅れているDAGの地域（南部のインド国境周辺）では低く12%である。この地域には8VDCあり、20ヶ所で非公式教育を行っている（場所はコミュニティ/個人で提供）。そのひとつで、2段階目の非公式教育を受けている24名が、算数、ネパール語（作文）言葉のグループに分かれて学習していた。

授業料については、小学校は無料。その他の費用として、教科書は5年生までは無料（いずれも義務教育ではない）。

- 小学校：6歳～10歳、1年生～5年生
- 中学校：11歳～13歳、6年生～8年生
- 高等学校：14歳～15歳、9年生～10年生

<ムニキさんの体験談>

DAG出身の女の子は勉強する必要がない、集落の考えは遅れておりムニキさんの両親も同様に思っていたため、勉強したくてもできない状況にあった。これは貧しさが原因でもある。11歳から非公式教育を受け始めたが、家事に追われて最初の10ヶ月を終えることができず、6ヶ月しかできなかった。再度挑戦したが、年齢が周囲の子どもたちよりも高かったためイジ

メにもあった。だが、そんな事には負けず第1段階を終了し、公立の小学校2年生に編入した。その後もムニキさんは母親と協力して資金を貯めて、また同時に奨学金を得て勉強を続けた。幸いにも、結果的に両親の理解と協力もあって自分は1人ではないことを実感し、頑張れた。全国の大学入試試験にタル族の村で初めての合格者となり、現在はキャンパスに通う。奨学金50%を得て、教育分野の勉強を続けている。将来は先生になる目標を持っており、子どもたちの考え方を変えたいと考えている。

先生によると、以前は、子どもたちが将来に対して何も考えることをしなかったが、この非公式教育を通じて将来のことを考えることができるようになったとのこと。同時に、親の変化（センターに通う前は教育に対して無関心であったが、現在は教育の必要性を理解し応援してくれるようになった）が見受けられる。

学校は楽しいですか？という質問に対し、子どもたちは目を輝かせハイとお返事していた。

■マナリ VDC 女性連盟（Mahila Jagaran Multipurpose Coöperative）を訪問：

CAPは17のVDCで女性連盟のメンバーを中心に、ファシリテーター、パラリーガル委員会（PLC）の関係者の協力を得て実施されている。メンバーには低カーストの方の参加も見られ、



特にユニセフ、女性開発事務所、PLC、郡政府機関、NGOと密に連携を取り合っている。特にDAG（低カースト）の女性の支援を最優先に考え、女性の権利の向上を目標に、経済的援助（収入を得られるプロジェクト）、衛生のプロジェクト、女性の能力向上等のプロジェクトを継続して実施できるように積立をしている。

村には9つの地区があり、地区にはそれぞれの世帯が集まって出来たコミュニティ組織（CO）がある。COには代表者がおり、その代表の集まりがVDCに1つある。現在、女性連盟の役員は11名（うち2名がDAG）、連盟

に参加しているCOの数は25、連盟のメンバーは741名（土着民609名、DAG56名、その他76名）。その代表の集まりで会計とローン、プログラムの評価/監視などの経済的な活動に関する研修を実施している。女性に関わる問題をどのように盛り込んでいくのかが課題としてあるが、例えば、グループを作る際のリーダーシップ、家畜（水牛、豚など）に関する研修、収入を得るための研修（職業訓練、例えば野菜栽培など）、PLCの研修（女性の権利、法的な知識を得るなど）などを行っている。

社会的意識を高める活動として、HIV/AIDS、ヨード添加塩（2CL）、学校教育（就学率を高める）、保健キャンペーン、献血、栄養、砒素汚染などについて学習/啓蒙している。特に女性は、それぞれが抱える問題に対して自ら解決できるようになってきたようで、女性の参加数も増えていることが知らされた。現在、連盟では3年に1回役員交代（立候補）を行っており、連盟メンバーは積極的に役員になりたがる。

VDCによって実施されるCAPと女性連盟によって実施されるCAPは、それぞれが主体となって活動を行っているため異なる。女性連盟のメンバーは当然女性であるが、特に低カーストへの支援を大切にしていることはVDCと違いはない。女性連盟では、低カーストの58%しか経済/社会的サービスを受けていない現状を踏まえ、原則メンバー以外にお金を貸出すことはないが、低カーストの人には無利子で貸出している（通常は15%）。これまで150人に貸出した（低カースト23人、うち2人には資金提供）。国政証明書がなくては連盟のメンバーにはなれないことから、土地も何も持っていないこともあるDAG（低カースト）出身者はメンバーになれないことがあるからである（現在は、結婚証や投票証でもメンバーになれる緩和措置あり）。

DACAW は既存のグループが取り入れる活動であるが、女性連盟は自分たちで立ち上げたグループで DACAW を取り入れて活動を実施している。また、事務所（建物）も運営費用も労働自体も女性自らの力で行っている。

女性連盟の積立総額は 180 万ネパールルピー（毎月 20～100 ルピーをグループで集めた）あり、これまで連盟自体も 335 万ネパールルピーを投資している。27629 ルピーが緊急用（妊産婦ケア）として蓄えられている（毎月 1 ネパールルピーの集金）。

女性連盟に支援されている資金は 11 万ネパールルピー（運営プログラムやガス工場などからの支援）。特に親密な、女性開発事務所と PLC のほか、およそ 160 の関係団体と協力して活動を実施している。マッピングを実施し、プロジェクト前後の評価を行っている。5 年間の目標として、トイレ普及率 100%、栄養不良 0%、低カースト参加 100% を掲げている。成果の 1 つとして、1 日に男女が仕事に割く時間が、女性 18 時間から 14 時間へ、男性 11 時間から 12 時間へとジェンダーギャップに改善が見られた。



■パラリーガル委員会（PLC）：

PLC の役割として、女性と子どもへの家庭内暴力削減、女性と子どもの権利向上を目標に活動を行っている。VDC にある 9 地区からそれぞれ 1 名が代表して PLC のメンバーになれる、各地区のことが良く分かり監視もできる。

昨今あった 102 件の相談（うち児童結婚 5 件、複数結婚 9 件）のうち、95 件は PLC で解決することができたが、残りの 7 件は郡レベルで取り扱った。PLC の活動によって、確実に家庭内暴力は減っている。相談を受けた PLC が、誰に相談することが一番適しているかを判断し、弁護士、警察あるいは裁判所に相談している。郡にはボランティアの弁護士がいる。PLC のメンバーそれぞれが所属する VDC 内での問題であれば、未然に防ぐことも可能で、例えば酒乱で問題を起こす夫に対しては、素面の時にコミュニティ全員の前で話をする機会を設け、再発防止を約束させるなどを行っている。実際に解決できなかった例としては、法律的に相当専門知識が必要となる難しい問題（複数結婚、レイプ、財産問題など）があげられる。

実際には警察に通報するケースも PLC に連絡が入ったりすると、問題解決のために自身の仕事を休まなくてはならないこともある。それでも、PLC は誇りを持って活動しているため、労を厭わない。

2007 年、435 件通報されたトラブルのうち 90% 解決（ナワルパラシ）した。同時期に PLC が関与しない問題で裁判が 45～46 件（全て解決）、弁護士、裁判所の負担軽減、政府に貢献しているといえる。PLC で活動するメンバーは、2 年間で全 18 日間のユニセフの研修を受けているが、今後は政府が研修費用を負担する（成果を上げているため）。

現在、PLC は重要視され始め、現在 15 郡で活動しているが、今後は全国 75 郡に設けたいと考えられている。また、低カーストの人たちが抱える問題が多いので、低カーストから PLC の役員を増やしていくこと、村落レベル（VDC）の解決だけでなく地区レベル（Ward）の解決もできるように、能力を開発していきたいという目標を持っている。

11月20日

■ナワルパラシ

ドゥーラリ VDC : Jwala Lower Secondary School (ジワラ中学校)

での公衆衛生と衛生学 (SSHE) : 子どもに優しい学習を訪問



同時にトイレの設置に関しても説得して回っている。結果として、この地域のトイレ普及率は2006年25%から2008年75%と飛躍的に改善が見られる。教室に鏡を設置し、掃除をするための用具などは、児童より月1～2ネパールルピー、先生より5ネパールルピーとカンパを集めて購入している(教室にも募金箱を設置)。このカンパは貧しい子どもの奨学金(鉛筆、ノート、将来的には制服も)にも充てられている(今までに5名に支給)。



子どもを中心に据えた学習空間で、体罰はなく、自由に精神を養うことを目指している。その結果、子どもたちが先生に怯えることなく発言できるようになった。1、2年生は机や椅子を使用せず、あえて床に座って授業を実施している。学校には障害者用のトイレも整っている。毎週金曜日、学外活動(クイズやスポーツ)を実施し、賞を子どもクラブが提供している。

衛生に関する取組みは学校からコミュニティに対して発信され、子どもクラブのメンバーを中心に家庭訪問して石鹸での手洗いなどを訴えている。このメンバーは3年前に組織され(4～8年生まで各4名メンバー)、現在は30名(男女15名ずつ)の子どもクラブのメンバーが先生の指導を受けて活動している(子どもクラブの活動は校長ともう1人の先生が指導)。

VDC の子どもクラブの保護者も学校運営委員として活動を支援している。ユニセフはこの委員会に学校運営や衛生についての研修を行い、同時に直接子どもクラブに衛生に関する研修を行うこともある。ユニセフは4年前から委員会の縁の下での力持ちとして支援している。以前は先生3名(有給)しかいなかったが、政府の協力により更に4人増えた(有給7名)。水と衛生に関する研修は実生活に役立てられているため、コミュニティでも大変感謝されている。例えば、このVDC(90%がマガル民族)では、衛生の知識はほぼなかったが、子どもクラブの活動や学校を通じて親の考え方が変わった。現在では、教育の重要性が認識され始め、しっかり屋根のあるちゃんとした教室(ユニセフの支援)で勉強できるようになった。

■プラガティナガル

Janajyoti Kanya Namuna School (ゾナゾティ中学校) を訪問 :

この中学校では、5年生までは男女共学、6～10年生までは女子のみとなる。初めて5年前に衛生の教育(近隣10校も一緒に、またコミュニティも取り込んで実施)に取り組み、各家庭での理解を十分に得ることができ、昨年全世帯(1200世帯)にトイレを普及することを達成した。ナワルパラシ郡開発事務所から調査があり、ネパールで初めて100%を達成したことを表彰された。6年前からユニセフと郡開発事務所が協力して衛生に関するプログラムに

取り組み、先生と子どもたちに研修を重ねてきた。取り組み実施に協力してもらうために、40名の子どもクラブを結成し、衛生担当の先生も2名いる。学校で取り組まれている衛生に関する活動を視察するため生徒を西の地域へ行かせたり、インドへの視察も実施した（子どもクラブ生徒1名のみ）。この地域で、衛生に関する取り組みは16校中10校で行われている（年間1回10校合同で1週間研修：モチベーションアップ）。

VDC、女性連合、CM、NGOと一緒に、学齢期の学校に来ない子どもたちに、学校に来るように声がけ活動をしている。実施を支援するために、ユニセフ、VDC、郡開発コミュニティ等は情報収集を行い、ユニセフが10万ネパールルピー、VDCが15万ネパールルピーを出し合って、トイレのない家に1000ネパールルピーを提供した。



トイレの設置状況を計るために、マッピングを5年前から始め、生徒の家庭と周囲の環境、コミュニティの全世帯の情報を収集した（5年前94世帯以外は全て設置、以降2007年1月100%）。保健所の情報でも、衛生環境の改善により病気に罹る人数も減ったことが明らかになった（きれいなトイレ、石鹸を使用して手洗い、グラウンドにもゴミ箱等）。衛生の知識を広めるために様々な調査、コミュニティの人々への対応（物質的要求を含む）をユニセフに相談し、研修を受けることで達成することができた（コミュニティ自体でも研修を実施）。

校長先生の働きかけで、学校が主体となって衛生に関する取り組み（トイレ、手洗い、生徒を通じてコミュニティに働きかけ、パレード（広報/普及活動）を学校で実践した。学校を2日間休んでまでもイベントを実施し、家や道をきれいにするように働きかけを行った。生徒には衛生的な習慣付けをし、生徒自身がコミュニティに出向き、広げ、定着させた。トイレのない家には生徒が実際に穴を掘ってトイレを作ったこともあったようだ。

■プラガティナガル

**Saathi Sanga Manka Kura（リスナーズクラブ）、
Peer Educator（ピアエジュケーター：ピア教育者）を訪問：**



SSMK のリスナーを視察。全国的な取り組みとしてSSMK、郡的（地域的）な取り組みとしてピア教育者（PE）が位置付けられる。ナワルパラシ郡ではHIV/AIDSに関連した問題（罹患者数7万人：その多くは20～25才の若者）を皮切りにPEが組織された。CAPが実施されている17VDCでPEはそれぞれ1人ずつ活動している。PEには研修（人材育成）が必要であると同時に、仲間を作ること（グループ）、直面している問題意識を高めること（例えばHIV/AIDSに関する情報発信）が求められている。

プラガティナガルの全9地区のうち地区7でPEが1名活動を行っており、リスナーズクラブという形の仲間づくりもした。問題は多種多様で、例えば、旦那が出稼ぎに行くこと等、男女の体にも変化が大きく出る頃なので相談が耐えない。出稼ぎから戻ってきた男性が体調不良を訴え、怪しく思ったPEはHIV/AIDSの検査を勧めたこともあった。結果、残念ながら陽性だったが、明確に診断結果を公にすると生活しにくくなるため（自身も自覚）伏せている。

HIV/AIDSの感染予防や治療について話し合ったり、麻薬中毒者の救済、ヨード添加塩（2CL）の使用を呼びかけたり、NGOと協力して妊産婦のケア（出産前後）のために積立/投資を行っ

たりしているが、若者が直面する問題で解決できないものは PE が SSMK に投稿する。地区 8 から来た女性は、自分も PE になるトレーニングを受けるチャンスがほしい、地区 8 は生活地域が幹線道路沿いではないので、コミュニティベースの子どもクラブもリスナーズクラブもない。情報が限られる等の地域差の問題提示をした。実状として、PE がもっと大勢いればもっと効果的に活動を広めることができていると感じているようだ。地区 7 では、子どもクラブが活動しており（2 種類：コミュニティベースと学校ベース）、子どもクラブ経験者が成長して PE になったり、グループを作ったりしている。ここのグループの 20 名うち 15 名は SSMK ラジオリスナーである。実際にリスナーズクラブ内では話しにくいことに関して SSMK に直接投稿して返事をもらっている。若者が抱えている問題は似通っているため、投稿内容が広く若者に役立っている。リスナーズクラブは 14/15 歳から 22 歳で卒業することになっている。

地区 7 では PE がユニセフとスリーネット(NGO)の支援を受けて、リソースセンターから様々な資料を受け取っている。PE 研修もリソースセンターで受講している。PE のいない地区 8 では VDC を通して資料をもらうことができる。

報告書中の写真クレジットは全て『(C) 日本ユニセフ協会』

CO・OPマークの牛乳を飲んでユニセフ募金

CO・OP マークの牛乳を買くと、ユニセフ活動に募金できるという取り組みが、2つのコープグループで始まりました。

神奈川県と静岡県と山梨県にある6つの生協で構成されるユーコープ事業連合（ユーコープ）は「**みるくぼさん**」として、関東と長野県、新潟県にある8つのコープで構成されるコープネット事業連合（コープネット）は「**ハッピーミルクプロジェクト**」として実施しています。ユニセフなどとタイアップし、CO・OP マークがついた牛乳の購入を対象に、1000ml または1本につき1円をユニセフの支援プロジェクトなどに寄付をするものです。いずれも3年間の中で、店舗と宅配で実施期間を設けて行われます。価格はそのままなので、私たちはCO・OP マークの牛乳を買うだけで、世界の子どもたちを支援できます。対象地域の方は、コープ牛乳を買って飲んで募金に協力しませんか。

◆みるくぼさん ユーコープ URL: <http://www.ucoop.or.jp/milk/milktop.html>

期間	寄付の内容	支援先
第1期 おうち CO-OP 08年10月1週～12月5週 お店 08年10月1日～12月31日	コープマーク の牛乳 1000ml につき 1 円寄 付	【ユニセフ】 アフリカ教育支援プログラム 【WFP 国連世界食糧計画】 学校教育プログラム
第2期 09年6月～8月		
第3期 10年6月～8月		

◆ハッピーミルクプロジェクト コープネット URL: <http://happymilk.coopnet.jp/>

期間	寄付の内容	支援先
2008 年度の実施期間 ■店舗 08年9月1日～11月30日 コープデリ宅配 08年9月1回～11月4回 ■店舗 09年1月19日～3月1日 コープデリ宅配 09年1月3回～2月4回 ※3年間の取り組みで、09年度、10年度の期間は未定	コープマーク の牛乳 1 本に つき 1 円を寄 付	【ユニセフ】 アフリカ・モザンビークの子 どもに対する栄養プログラム

それぞれかわいらしいロゴもあります。

みるくぼさん



HAPPY
MILK
PROJECT

知りたい?

知っここ。ユニセフ女子教育編

Q 女子教育の強化がなぜ大切なのか 教えてください

世界では約 1 億 1500 万人もの子どもたちが 小学校に行けずにいます。

	成人識字率 (%)		初等教育純就学率 (%)	
	男	女	男	女
アフガニスタン	43	13	—	—
エチオピア	—	—	58	55
インド	73	48	92	87
マリ	27	12	50	43
ネパール	63	35	83	73
パキスタン	63	36	76	56
ニジェール	43	15	46	32

識字率・・・15 歳以上で読み書きのできる者の比率

初等教育純就学率・・・公式の初等教育就学年齢に相当する子どもであって初等学校に就学する子どもの人数が、当該年齢の子どもの総人口に占める比率

— はデータなし

世界子ども白書 2007 教育指標 より

就学率、また成人してからの識字率にも 男女に格差があります

何故か？

学校に行けない理由は貧困の悪化 緊急事態 HIVエイズなど事情は様々で複雑ですが特に女子には慣習的な態度、根強く残る不平等（女子の教育は価値のない投資との考え）児童労働 早期結婚・10 代の妊娠 早期からの家事手伝い きょうだいの世話などの理由もあり就学率は男子よりさらに低いのです。

女子教育は男女両方の子どもの教育をすすめる上でのカギである

女子教育への支援は次の世代の子どもに対しての効果が期待できる

**女子教育が
なぜ大切か**

女子が学校に行けない構造的な問題に本格的にとりこむことがジェンダー平等の進展につながる

サハラ以南アフリカ、南アジア、中東および北アフリカの三地域を中心として、教育における男女の格差が依然として縮まらない。

教育を受けた女子

早期結婚から逃れられる

栄養、医療、に注意をはらい子育てが出来る

生む子どもの数が減る

自分や子どもの生存の可能性が高まり、その子どもたちは、女子であれ、男子であれ 健康になり教育の機会に恵まれ 自信を持つようになる可能性がより高まる。

子どもの主たる養育者は女性である

ユニセフは

国連女子教育イニシアティブ（UNGEI）を主導する機関として 100 カ国以上でパートナー（国の中央・地方政府 教育者 草の根組織 NGOなど）と協力しながら 又コミュニティー（長老組織や宗教家などの支援）における啓蒙にも力をそそぎ 「女の子を学校へ」！を応援しています。



世界の 子ども達は今

【女子教育】

(文) 松本 真弓
(絵) 蛭沢 素子

ニジェールでは、男女の格差が大きく、小学校就学年齢の3分の1しか学校に通っていない。中学校へ進学する女子は、わずか6パーセントにすぎない。



そんなニジェールで『全ての女の子を学校へ』キャンペーンが始まった!



ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金のお知らせ

■『ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金』ってなに？



馬場のぼる

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金とは、世界の子どもたちの幸せと明るい未来を実現させるため、市民一人ひとりがボランティアとして参加する身近な国際協力活動です。

1979年の国際児童年に始まり、今年で30回目を迎えます。参加方法はアイデア次第！日本中で、さまざまな機会、さまざまな場所で、私たちの思いを世界の子どもたちへ届けま

しょう！

■今年のテーマは？



©UNICEF/HQ07-0108/

Thierry Delvigne Jean

『守りたい。子どもたちの命、アフリカの未来』

ご存知ですか？

いま世界で、5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもは年間920万人。その半数がサハラ以南のアフリカの子どもたちです。HIVに感染している子どもの90%、マラリアで亡くなる乳幼児の80%もこの地域に集中しています。世界各国で子どもたちを守る様々な努力が成果を实らせている一方で、取り残されつつあるアフリカ。子どもたちの生きる環境に、大きな格差が生まれているのです。今年のユニセフ ハンド・イン・ハンド募金では、アフリカの子どもたちの命を守る支援を呼びかけます。

■どうやったら参加できるの？

ハンド・イン・ハンドは登録制ですので、必ず参加申し込みをして下さい。折り返しこちらから募金活動に必要なツール（ポスター、募金箱、募金箱に貼る下げ札、チラシ、ステッカー、『活動の手引き』等）や、振込用紙を送付いたします。

>>>お申し込みの前に<<<

活動場所はお決まりですか？

場所によって、事前の申請が必要な場合があります。活動場所の所有者（公道の場合は所轄の警察署）に敷地使用の手続きについて直接ご確認ください。

■11月と12月がハンド・イン・ハンド実施期間です

毎年12月23日（祝）を全国一斉活動日としていますが、11月と12月の都合の良い日に実施することができます。また、活動日は1日だけではなく、11月あるいは12月中であれば、何日間おこなっても構いません。

■どうやって活動するの？

～たとえば、こんなやり方があります！～

- 友人や家族、仲間、会社の同僚などが集まり、街頭募金をする
- クリスマス関連のイベントを実施し、その収益を募金する
- ユニセフ協力デーを設定し、売り上げの一部を募金する
- 学校や職場、家庭などに募金箱を置いて、周囲に募金を呼びかける
- 学校の文化祭等で呼びかける
- お小遣いの一部を募金する

...など、できる範囲で、自分たちのオリジナルのアイディアを考え、活動してください。



©日本ユニセフ協会

【お申し込み・お問い合わせ先】

(財) 日本ユニセフ協会 団体・組織事業部

ハンド・イン・ハンド係

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

電話 : 03-5789-2012 FAX : 03-5789-2032

e-mail : event-dr@unicef.or.jp

2008年度は、全国の生協で開催が予定されています。12月10日までに日本ユニセフ協会にお申し込みいただいた生協を紹介します。

生協名	開催予定日
いわて生活協同組合	12/14～
山形県生活協同組合連合会	12/13・15・20
生活協同組合パルシステム福島	12/7
生活協同組合コープあいづ	12/14
福島県南生活協同組合	12/16
栃木県生活協同組合連合会	12/13or20
ちばコープ	12/6・12・13・21・22・23
生活協同組合コープかながわ	12/13
コープぎふ	11/15・16・29・12/1～25
みかわ市民生活協同組合	12/14～12/23
めいきん生協 ユニセフ協力活動をひろげよう会	12/6～23

生活協同組合コープみえ・三重友の会	12/14
生活協同組合コープしが	11/7~12/13
京都生活協同組合ユニセフサポーター	12/7
おおさかパルコープ ウィズ・ユウ	12/9
おかやまコープ	12/20~
生協ひろしま 東エリア委員会	12/20
生協ひろしま 南エリア呉平和委員会	11/16・12/14
生協ひろしま 西エリア委員会	12/20
日立造船因島生活協同組合	12/1~9
鳥取県生活協同組合	12/18・20・21
生活協同組合コープかがわ	12/7~
生活協同組合コープえひめ	10/25~12/21

★ハンド・イン・ハンド募金の取り組みがありましたらお知らせください。

ぽむぽむ広場

☆ ぽむぽむ通信第 42 号をお届けします。今回はネパールスタディツアーの報告です。ネパールは日本の 3 分の 1 くらいの面積の小さな国ですが、ヒマラヤ山脈に代表されるように豊かな自然に恵まれた国です。世界各地からトレッキングを楽しむ人がやってきて、空港はすごくにぎわっていたそうですよ（下条）。
 ☆全国の活動事例や、ぽむぽむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください。
 ☆次号は、3 月 15 日発行です。お楽しみに！

ユニセフ＊コープネットワーク
 ぽむ・ぽむ通信
 No.42 2008 年 12 月 15 日発行
 編集 **グループ ぽむ・ぽむ**
 スタッフ・編集／尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
 松本・山本・谷口・下条
 イラスト／蛸沢
 発行 日本生協連 組合員活動部
 〒150-8913
 東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11F
 TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125
 ホームページ <http://www.jccu.coop/>